



コーヒー・ブレイク

ババンバンバンバン

ババンバンバンバン

いい湯だなあ

アハ ハーン

お待たせしました！！ 私の湯の旅、第2部

吉野の隠し湯・吉野温泉元湯（大和、***）

櫻の国の櫻の名所・吉野山にとっておきの温泉のあることを知る人は、今でも、稀である。20数年前には、近畿日本ツーリストの人たちでさえ、知らなかった程だから...

この素晴らしい温泉だけは、実は、**紹介したくはなかった**というのが本音である。それは、この湯が、極めて近場にあるという点においても貴重だからである。今回の取材に同行してくれたNさんも「これはHPに載せないでこよう！」と言ったくらいに感動もしてくれた。



とはいっても、山上にある新吉野温泉(*) ロープウェイの終点から勝手神社(その昔、**源義経の愛人・静御前**が敵衆のために神前にて舞を所望されたというところ)に至る旅館群とは区別しなければならない。何はともあれ、私は、この雅な吉野路が大好きで、もう幾十回となく訪れている。

その**吉野温泉元湯(***)**は『歌書よりも軍書にかなし吉野山』とうたわれ、或は『一目満本(但し、その殆どはヤマザクラ)』と形容される、あの華麗な、吉野山中にあるとはおもえない程の素朴な湯である。

近鉄・南大阪線・吉野駅(阿部野橋から特急で1時間強)から徒歩で約20分のところにある。道順は駅員に尋ねるとよい(今は、道案内も、きちんとできている。) 一本道で分かり易い。過去の地道は、今は、舗装されている。

吉野山直下の**瀬古川沿いで、泉湯谷にある湯治場**でもある。あの喧騒の吉野山のすぐ下にあるとは信じがたい静けさだ。位置としては、山上の吉水院(兄・頼朝の厳しい詮索の眼を逃れた義経、**弁慶**の一行が隠れ潜んでいたところ)の直下にあたる。吉水神社から、急坂を、下ってくることもできる。

泉質は含・炭酸鉄泉30。もちろん、浴用には、加熱している。従って、いつでも好きなときに入れるという訳にはいかないのが口惜しい(これは、今も、変わりはない。) さらには、湯槽は一つしかないので男性、女性が交代で入らねばならなかった。が、ご安心下さい。今は別個に造られていて、聞くところでは、女性風呂の方が大きいらしい(女性客の方が多いとも言う。) 湯に手をつけるだけで、すぐに、手のひらが茶色っぽく染まる。ほんものの証でもある。一見は、有馬を、おもわせる。**褐色を帯びているお湯**の開かれたのは、今から、300数十年も昔と云われている。当時は吉野山の120にもものぼる寺院の僧侶たちの湯治場として賑わったようだ。

吉野山は櫻と史跡の勝地として、さらには、**霊峰・大峰山(日本で唯一の女人禁制の山)の修験の道場**としても有名であったため、しぜんと、全国各地から文人・墨客、或は修験信徒の入山・来湯も多かった。その名も**“吉野の湯”**として各地に伝えられ、有馬や、遠くは道後の湯とも並び称せられる程であった。 が、

全山百余の僧坊にたむろして、肉食妻帯禁止の修験戒律を強いられていた多数の修験者(山法師)のなかには湯治に名を偽り、しきりに出入りをして酒色にふけり、戒律を乱すものも続出した。そこで、ついに、吉野学頭職からの闕所命令がでて、廃絶してしまった。

その後は、密かに、仮設浴場を備えて(明治初年?) 湯治場として復興したところ、誰云うともなく、“吉野の隠し湯”または“吉野の内緒風呂”と呼ばれるようにもなった。太平洋戦争中は再び休業し、戦後に、また開かれることとなる。

人里離れた環境の故もあって、未だに、**秘湯の面影**を深く漂わせている。温泉の位置するところは、俗に云われる、下の千本と中の千本との境にあって、季節には、花のなかに埋もれる。

瀬古川は、かつて、**南朝を興された後醍醐天皇**によって『花にねて よしや吉野の 吉水の まくらのもとを 岩ばしる音』とうたわれた川である。小さな小川にしか過ぎないが、窓辺に聞くせせらぎの音には、旅の心をくすぐられるに十分である。近くには、吉野朝の、史跡にも富んでいる(天皇の御陵も近い。)

とりわけ、駅から、南朝にもっとも縁(えにし)の深い**如意輪寺**へは、この古びた宿の前を経ると平坦で、最短距離にある。まさに、お年寄りや、小さなお子さん向きでもある。しかし、今でも、このコースを歩く人は極めて少ない。だから、静かなのである。お寺付近の土手には、お彼岸の頃ともなれば、火の花・まんじゅしゃげ(彼岸花)が妖しげに乱舞もしている。

なお、この**温泉の効能**としては貧血症、神経痛、リュウマチ、婦人病、外傷があげられていた。飲用も可能?

20 数年前の夕食には、**特別料理**らしいものも、なかった。鳥すきぐらいはできたかとおもう。しかし、今は違う。食卓に並んだ、美味しそうな、会席料理(写真参照、昼食である。)を見られるとよい。松茸までが添えられていた。他にもカモ鍋などもできるという。シーズンともなれば、吉野川で獲れる、鮎料理も期待できることだろう。**ここの鮎**は、塩焼きにすると、腹に鮮やかなピンクの筋のでるのが特徴である。



窓外には、大きな、しだれ桜の古木が二本あり、さぞかし満開のときの素晴らしさといったら... 再訪するなら、その時期に、あの部屋がいいなあ!

何度でも言うが、近郊の湯でも、最大級の穴場である。穴場中の、穴場の、穴場といっても過言ではなからう。

下記を一度ご覧下さい。

記

大和の温泉の一つです。入之波と書いて“**しおのは**”と読みます。同じ吉野郡にあって、こちらは川上村に存在します。

元禄年間からの湯治場と云われているから、秘境の古湯の一つではある。

片方は、**民営の入之波温泉・山鳩湯**です。

泉質・泉温は、全国でも珍しい、含炭酸重曹泉で、非常に味のある湯らしい。

温泉余土もみられると云います。39.6

効能は16、飲用も可(飲用の効能7)

片方は、**村営の入之波温泉・五色湯**です。

泉質・泉温は、単純泉で、25.9

効能は5? 飲用は不可

ほん隣同士に建ってはいるのですが... (某ローカル新聞社の刊行物より)

実は、私は、五色湯のみを知っています。その日は、あいにくと、山鳩湯は休業日でした。

五色湯では、温泉に入っても、入った気が余りしません。

一方、山鳩湯をよくご利用になられる人たちが云われるには「**あれは本物だ。**」と。

これなんです。この違いなんですよ。この微妙な、微妙な違いの温泉が、今、ゴロゴロしているとはおもわれませんか? 温泉の数は多くても、既に4分の1くらいがそうではないですか? 雨後のたけのこの如く、やたらとポーリングして発見された温泉が、できるのもあながち悪いこととは言いません。しかし、新

しいもののなかには、どうもこの手のものが多いようです？ 温泉に来て温泉に入りながら、来た気が、入った気が余りしないというようなものが... 私は、これらの湯を総称して、“ゴロゴロ温泉”と名付けています。何もにせものとはまでは言いません。確かに、温泉の、条件は満たしています。

いま、私は、関西でも有数の高級住宅地である学園前(奈良市の西の端)に住んでいます。拙宅は貧弱だが、なるほど、周りはずごい。その拙宅の極く近くで、仄聞するところでは、ボーリングして温泉を当てるとか？ バッカじゃなからうかとおもっている。見つければ、また、そのゴロゴロ温泉が1つ追加されることとなる？ なぜか行く気、入る気のしない温泉が目立ってきた？

さて、お話を“吉野温泉元湯”に戻しましょう。

記録を追うと、なお、おもしろい。あの詩人・藤村が22歳の春、即ち明治26年3月14日~4月22日までここに逗留し、その間に、『訪西行庵記』『人生の風流に懐ふ』等の作品の執筆をしている。その他にも、十和田湖畔に近い奥入瀬溪流にある薫温泉(*** また、認めます。)をこよなく愛した明治の文豪・大町桂月や懐かしい作家・山中峯太郎さんら著名人も多く来湯している。

ここ・吉野路は、この他にも、蔵王堂、吉野建(私はこの造りが大好きだ。) 宮滝遺跡、国栖奏の村(紙漉きの村、谷崎潤一郎さんの作品の舞台ともなった。) 龍門岳 etc. etc. みるべきところは極めて多い。関心のある方には郷土の詩人・前登志夫先生による『吉野紀行(角川写真文庫からも出版されている筈である。)]』をご推薦したい。

大河・紀ノ川の上流にあたる吉野川は到るところに青い淵をつくっている。

なお、奥の千本(西行法師が庵を結んだ。俗に西行庵と云われるが、西行庵そのものは各地にも数多くある。)と上の千本との境ではさわやかな山つつじが咲き競う。

付記すると、桜だけを取り上げるなら、むしろ吉野神宮の通称・長峰の桜(ソメイヨシノ)に魅かれる。但し、ここは車の往来も激しく、ゆっくりと花見という訳にはいきにくい...

なお、桜の名所は、また、紅葉の名所であることも忘れないでおいて欲しい。しかし、この桜紅葉(さくらもみじ)の紅黄葉は早い。11月1日には下の千本でも、既に、散っていた。

客室によっては、窓の外に、しだれ桜やヤマザクラが折り重なるように眺められ、屋根や窓枠にまで桜の枝が伸びている。うまく予約がとれればそれに越したことはない。



インフォメーション

国立公園・吉野山

吉野温泉元湯・小川旅館

07463-2-3061

料金 昼食 5,000円(入浴料込み)

宿泊 13,000円~(各税別)

収容人員 新館ができ、増員された。

休業日 不定

注) 1人客は宿泊させてもらえないのでご注意ください！

~ 一部は、宿の、パンフレットより ~

[いい湯だなあ](#) [へ](#) [pdf ファイルの目次](#) [へ](#) [前ページ](#) [へ](#) [次ページ](#) [へ](#)